

公益社団法人 上伊那教育会

# 総研修会「仰望の日」

期日：令和5年6月7日（水） 会場：伊那文化会館

【開会・全員合唱 上伊那教育会の歌「仰望」】



【原 浩範 上伊那教育会長 挨拶】

梅雨の晴れ間に吹く、初夏の風が心地よく感じられる季節となりました。

本日ここに、令和5年度公益社団法人上伊那教育会総研修会『仰望の日』を開催いたしましたところ、多くの会員の皆様方にご参集いただきました。ありがとうございます。また、ご多用の中、信濃教育会会長武田育夫様をはじめ、多くのご来賓の皆様方にご臨席を賜り、総研修会を

開催できますことに、心より感謝申し上げます。

ただいまは、会員の皆様方と一緒に上伊那教育会の歌「仰望」を歌うことができ、大変感動しております。この総研修会『仰望の日』ですが、会員が一堂に会しての開催は、実に4年ぶりのこととなります。1100名余の会員とともに同じ場の雰囲気を感じながら一体感を持って研修ができますことを、大変うれしく思っております。

本年度の教育会のテーマは「共に学び 共に育つ～人と人とのつながりを大切にしながら～」です。コロナ禍の中にあり、オンラインの便利さを知った一方で、会員同士が顔と顔を見合わせながら語り合うことのよさや、つながることの大切さを改めて実感しました。4年ぶりに参集して新入会員歓迎研修会を行いました。会員同士が互いの思いを語り合う中で緊張がほぐれ、至る所で笑顔が溢れとても印象的な会になりました。参加者からは、「顔を合わせて集まることができ大変嬉しい。今回お話した先生方との縁を大切にしたい。」「日々の悩みを聞いていただき、ありがたかった。」「自分の考えに固執せず、

教育会などで様々な先生方と考えを共有し、自分自身の成長につなげていきたい。」といった内容の感想をいただきました。一人では難しいことも、仲間と共に学ぶことで乗り越えることができます。様々な意見や考えに触れることで自らの視野を広げ深めることができます。世代や立場・職種を超えて様々な人とつながり語り合い、会員が共に力量を高めることができる研修や事業になるよう努めてまいります。

郷土の哲学者唐木順三先生は「時流を追わず、時流に流されず、時流に面々相對して、顔を背けないままに、根源を問い、根源に参ずる」と言っています。教育会の研修や事業を少しずつ元に戻してきておりますが、その研修や事業の本質は何か、根源は何かをしっかりと見極め、その上で変えるべきところは変えながら取り組んでまいります。これからも上伊那教育会に集い、共に学び共に育っていきましょう。

最後に、本日の講演会の講師を紹介させていただきます。安田菜津紀さんです。認定NPO法人 Dialogue for People の副代表、フォトジャーナリストとして、中東を中心に東南アジア、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進められており、特に、東日本大震災以降は、陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けておられます。また、執筆活動や、TBSサンデーモーニングのコメンテーターなど、多方面でご活躍をされています。本日は「被災地、紛争地に生きる子どもたち～取材から見てきたこと～」と題しまして、ご講演をいただきます。平和や人権にもかかわる大変貴重なお話をお聴きできるものと期待しております。

午後の教科等教育研究会による研修と合わせ、終日の研修となりますが、会員の皆様にとって有意義な一日となりますことをご期待申し上げ、挨拶といたします。

## 【武田 育夫 信濃教育会長 来賓祝辞】



おはようございます。ご紹介いただきました信濃教育会の武田育夫と申します。本日は、令和5年度上伊那教育会総研修会「仰望の日」の開催、まことにおめでとうございます。また日頃より上伊那教育会の皆様方には信濃教育会の事業にご協力いただいていること、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございます。

明治から大正、昭和と信州教育を牽引した一人に岡村千馬太という人がいます。岡村千馬太は安曇野市出身ですけれど、長野師範学校を卒業後、県内の小学校で教鞭を執り、明治33年25歳の時に伊那小学校へ赴任をしました。明治の画一的で形式的な教育の中で、岡村千馬太は教師の主体性や子どもと教師の人格的なふれ合いなどを叫び、教育改革を主張し実践していました。岡村は伊那市室町に住宅を借りました。そこには樹齢300年の大きなけやきの木があったということで、「櫻樹書院(きよじゅしょいん)」と名付けました。この櫻樹書院には伊那だけでなく、諏訪、松本から青年教師が日々集まり、教育刷新について語り合っていました。それはさながら水滸伝に出てくる梁山泊のようであったと言われています。ここに集った青年教師たちが、後の大正時代に花が咲くことになる自由教育や人格教育の原動力となっていました。信州教育の震源地は、ここ上伊那にあったと言えます。信州教育という言葉が出てきたのは、明治30年代からでございます。信州教育の最盛期と言われる大正時代、岡村千馬太はじめ真の教育を求め、子どもの個性を伸ばすことを願い、研鑽を積み、挑戦をし、挫折し、そして立ち上がる教

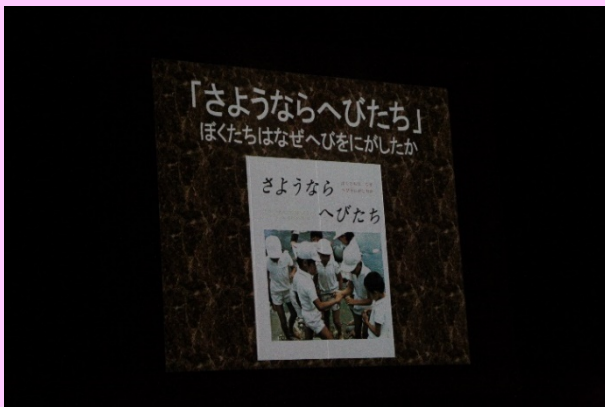
師が県下各地に何人もいました。信州教育とは、何らかの理念でも方法でもなく、形のあるものでもありません。これらの教師たちの研鑽と挑戦の事実なのです。ですから信州教育には様々な様相がありますが、その特徴の一つにまとめるとすれば、県や国などの教育行政が主導したものではなく、現場の教師たちから創り上げられたものであるということであります。ですから、信州の教師たちは一人ひとりが信州教育を創っているという自覚と矜持をもっていました。

激動の時代と言われ、多様性の時代と言われ、様々な価値観が混在する時代です。このような時代の教育を担う教師、この教師自身が個性的でなくてはなりません。そして教師自身が自由でなくてはなりません。教師が個性的であり、自由であり続けるために長野県の教師は信濃教育会に集い、上伊那教育会に集って学び合い、協力し合っていました。今でも長野県は教職員の裁量性が高い県だと言われています。この強みを生かすためにも教師は主体的に学び、正しいと思う教育を実践していく必要があります。それを可能にするのは長野県にある「教育会」という文化だと思います。明治時代、この伊那の地に集い、これからの教育を熱く語った青年教師たちがいました。令和の時代においても熱い上伊那であり新しい時代の教育を創造する発信地であることを期待しております。信濃教育会はこれからも上伊那教育会とともに歩み、長野県の子どもたちのために進んでまいりたいと思います。

本日はまことにおめでとうございます。

## 【 会員発表『溝上淳一先生の文学作品について』 】

郷土研究部文学班 東春近小学校 平澤 真美 先生



### 参会者の感想

- 会員発表では、溝上先生の文学から子どもの見方をもう一度自分のこととして振り返るきっかけになりました。溝上先生の他の文学作品を読んでみたいです。
- 子どもたちの動きを詩に記し、表情豊かに伝えた溝上淳一先生の功績は計り知れないと感じました。溝上先生の教育観を初めて知る先生方が多かったのではないのでしょうか。貴重な会員発表でした。そうした一面を取り上げ、調査研究して下さった研究部の皆さんの視点が大変素晴らしく思います。新たな発見に感謝です。
- 平澤先生の抑揚のあるお話の紹介に引き込まれた。一冊の本の内容をみんなで読み合い、多方

面から意見を出し合うことの大切さを感じるとともに溝上淳一先生の文学作品の素晴らしさを垣間見ることができた。

○実践的な内容でとても引き込まれました。また、身近な先輩が残してくださったものを引き継いでいく活動がよいと思いました。

○すっかりと聞き入ってしまいました。子どもの捉えにつながるとても興味深い内容でした。また、話の抑揚もとても良く聞きやすかったです。ありがとうございました。

### 【会員合唱】

☆上伊那教育会合唱団による合唱『くちびるに歌を』

☆全員合唱『信濃の国』



### 参会者の感想

○何度も練習を重ねてくださったことと思います。素晴らしい合唱をきかせていただき、先生方の熱意が教育会の理念そのもののような気がしました。

○素晴らしい合唱で感動しました。会員の先生方の熱いお気持ちが合唱に込められていて素敵でした。

○素晴らしい歌声をありがとうございました。合唱団の方の発表の場があってよかったと思います。素敵な歌声から元気もらいました。ありがとうございました。

○久々の合唱団の歌声に感動した。圧巻だった。素晴らしい合唱だった。迫力があつた。感動した。久しぶりに素敵な歌声を聞くことができ、気持ちの良い時間が過ごせた。お忙しい中、練習お疲れ様でした。ありがとうございました。

○鳥肌が立ちました。すばらしかったです。一体いつ練習していたのかと思うくらいよかったです。

○久しぶりの合唱をすることができて、とても楽しかったです。声を合わせ、心を通わせ、一つの作品をつくりあげる喜びを改めて感じることができました。

○数年ぶりの合唱ができて、本当に幸せでした。やっぱり音楽は生が一番です。あの空間でたくさんの先生方とあの音楽を共有できてうれしかったです。

## 【講演】

### 「被災地、紛争地に生きる子どもたち～取材から見てきたこと～」

認定 NPO 法人 Dialogue for People  
／フォトジャーナリスト

安田 菜津紀 さん



#### 参会者の感想

- 現場を本当に知る人の声や思いを知りました。現地に行ったからこそ感じるものがあります。子どもの笑顔を見ることのできる日々を大切にしていきたいです。このことをどのようにして子どもたちに伝えていくか考えていきたいと思います。
- 心にぐっと来る内容。私達がここにいてできる役割について考える時間となりました。実践していきたいと思います。
- よかった。日頃見聞きするニュースをうのみにするのではなく、世界情勢を鑑みて俯瞰的にみる必要があることを感じた。小学生にどう伝えるか、難しさも感じた。
- 東日本大震災を風化させず、未来に伝えていくことが私たちの義務だと感じた。
- 安田さんの生の言葉と写真で、他人事ではなくわたしと「あなた」の話としてお話を聴くことができうれしかったです。子どもたちにも伝えていきたいです。
- 日々に追われていると、社会で起きていることに対して無関心になってしまうことがよくあります。目の前の出来事だけではなく、世界にはどんな問題が起きているのか、自分にできることは何なのか、そういう視点を持つことの大切さを子どもたちに伝えていくことが、教員としての私の役割分担なのだろうと改めて考えさせられました。



会員の皆様、地域の皆様のご理解とご協力により、4年ぶりとなる参集開催での「上伊那教育会総研修会『仰望の日』」が充実したものとなりました。誠にありがとうございました。